

201333005B

厚生労働科学研究費補助金

難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業

小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の
標準化に関する研究

平成23年度～平成25年度 総合研究報告書

研究代表者 田尻 仁

平成26（2014）年3月

目 次

I.研究代表者総合研究報告書

- 小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究
研究代表者：田尻 仁 1

II.研究分担者総合研究報告書

1. 小児ウイルス性肝炎に対するインターフェロン治療に伴う副作用に関する研究
森島 恒雄 33
2. 当院におけるペグインターフェロンを使用した小児期慢性C型肝炎治療の経験
木村 宏、伊藤 嘉規 37
3. 小児 HBV 感染および HCV 感染の治療効果に関する疫学的評価
細野 寛代 45
4. 小児 C型肝炎ウイルスの治療と B型肝炎ウイルス母子感染予防
田中 靖人 52
5. 治療効果を規定する宿主因子の検討
杉山 真也 60
6. 一塩基遺伝子多型と自然経過での HBe 抗原セロコンバージョンの関連について
乾 あやの 69
7. 小児ウイルス肝炎 (B型及びC型) 診療の現状
牛島 高介 79
8. 慢性ウイルス肝炎に対するインターフェロン(IFN)療法
－HBsAg量と HB コア関連抗原の有用性について－
村上 潤 84

9. 小児 HBV および HCV 感染の調査 (関東地区)	
工藤 豊一郎	94
10. B 型肝炎母子感染防止のための HB ワクチン接種時期の相違による 抗体価の推移	
鈴木 光幸	99
11. 宮城県立こども病院における B 型・C 型肝炎患者の実態調査	
虻川 大樹	106
12. 当センターにおける小児 B 型慢性肝炎、C 型慢性肝炎患者の 臨床治療経過	
恵谷 ゆり	112
13. 小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	
三善 陽子	114
Ⅲ.研究成果の刊行に関する一覧表	122

I. 研究代表者総合研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業）
小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究
総合研究報告書

小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究

研究代表者 田尻 仁 大阪府立急性期・総合医療センター小児科 部長

研究要旨

本研究の主な目的は、小児期発症の B 型慢性肝炎および C 型慢性肝炎の自然経過と治療効果を検討することである。本年度も 23 年度、24 年度と同様に班員の施設において診療を行った B 型慢性肝炎および C 型慢性肝炎の患者について調査票を用いて実態調査を行った。その結果、B 型慢性肝炎 464 名、C 型慢性肝炎 222 名の報告を得た。

B 型慢性肝炎に対する治療効果について検討した。対象は IFN 治療群 63 例と慢性肝炎の経過観察群 94 例である。IFN 治療群に対して、経過観察群は有意にセロコンバージョンを起こしにくかった(P=0.005)。一方、IFN 治療群における有意な予後良好因子は認められなかった。小児 B 型慢性肝炎については IFN 治療が推奨される。

C 型慢性肝炎の治療については、genotype-2 群において PegIFN 単独治療に比べて PEG/RVB 併用治療の効果が有意に高かった。Genotype-1 群における PEG/RVB 併用治療の効果は、IL28B 遺伝子多型メジャーアレル群では良好であったが、マイナーアレル群では不良であった。小児 C 型慢性肝炎については genotype-2 と genotype-1 の IL28B メジャーアレル群では PEG/RVB 併用治療が推奨される。

最後に、平成 23～25 年度の 3 年間の成果に基づいて小児 B 型慢性肝炎および C 型慢性肝炎に対する治療ガイドラインを作成した。

研究分担者

森島 恒雄	岡山大学大学院小児医科学	牛島 高介	久留米大学医療センター 小児科
伊藤 嘉規	名古屋大学大学院 医学系研究科	村上 潤	鳥取大学周産期・小児医学
細野 覚代	愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部	工藤豊一郎	筑波大学医学医療系 小児科
田中 靖人	名古屋市立大学大学院 医学研究科 病態医科学	鈴木 光幸	順天堂大学小児科
杉山 真也	国立国際医療研究センター	虻川 大樹	宮城県立こども病院 総合診療科
乾 あやの	済生会横浜市東部病院 こどもセンター 小児肝臓消化器科	恵谷 ゆり	大阪府立母子保健総合医療 センター消化器・内分泌科
		三善 陽子	大阪大学大学院 医学系研究科小児科学

A. 研究目的

成人の B 型慢性肝炎および C 型慢性肝炎の治療は、厚生労働省研究班によるガイドラインが適時改訂されており成人では確立している。一方、小児については、公表された治療ガイドラインはない。新薬開発とその臨床応用が飛躍的に進みつつある現状では、小児に対する標準的な治療方法を立案する意義は極めて大きい。本研究の目的は、小児 B 型慢性肝炎と C 型慢性肝炎に対する治療について、我が国の自然経過および治療成績に基づいた治療ガイドラインを策定することである。これらの成果は、我が国における小児 B 型および C 型肝炎の撲滅にむけての重要な一歩となることが期待できる。

B. 研究方法と進捗結果

1. 分担研究施設における小児 B 型慢性肝炎および C 型慢性肝炎の患者実態調査（村上、牛島、三善、恵谷、田尻、虻川、乾、伊藤、鈴木）

全国各地で肝臓・感染症・消化器の専門医が診療してきた小児のウイルス肝炎の患者について、自然経過、および IFN 治療の長期効果について調査を行った。

別表のように 19 施設から B 型慢性肝炎 464 名、C 型慢性肝炎 222 名の報告があった。B 型慢性肝炎では約 80%が無治療で経過を見ているのに対し、C 型慢性肝炎では 76%が IFN 治療を中心とした治療を受けている点が対照的であった。また若年発症肝細胞癌が、B 型肝炎では 11 例報告されたが、C 型肝炎では報告はなかった。

2. 小児 B 型慢性肝炎および C 型慢性肝炎の調査票で得られた全ての症例に関する基本データの解析(細野、高野、田尻)

研究分担施設からのデータをもとに、小

児の B 型慢性肝炎および C 型慢性肝炎の患者について基本データの解析を行った。今年度は、B 型慢性肝炎および C 型慢性肝炎について最終解析データを報告した（詳細は分担報告参照）。

3. 小児 B 型慢性肝炎の IFN 治療効果と IFN 治療例の予後良好因子の検討(細野、田尻、高野)

IFN 治療群に対して、経過観察群のハザード比は 0.31 (95%信頼区間=0.14-0.71, P 値=0.005)であり、経過観察群は有意にセロコンバージョンを起こしにくかった。一方、IFN 治療群における有意な予後良好因子は認められなかった。

以上より、IFN は小児 B 型慢性肝炎の有用な治療であることが判明した（詳細は分担報告参照）。

4. C 型慢性肝炎の自然経過及び治療効果に関わる宿主側因子、ウイルス側因子の検討（田尻、高野、田中）

(1) 今回の検討では、genotype-1 では、IFN 単独治療に比べて PEG/RVB 併用治療の SVR が有意に高率であった。genotype-2 については、IFN 単独治療および PegIFN 単独治療に比べて PEG/RVB 併用治療の SVR が有意に高率であった。

(2) genotype-1 のメジャーアレル群 (IL28B 遺伝子多型が TT) では治療効果が良好であったが、genotype-1 のマイナーアレル群 (IL28B 遺伝子多型が TG/GG) では不良であった。

(3) C 型慢性肝炎のペグインターフェロンとリビリン併用療法のウイルス側の治療効果予測因子として、コア 70 を検討したが、有意な影響を認めなかった（詳細は分担報告参照）。

5. 小児ウイルス性肝炎治療ガイドラインの作成

平成 23～24 年度の本研究班の研究成果および既存の国内や海外のエビデンスを参考にしながら B 型、C 型のガイドラインを作成した。その手順は、まず研究代表者が文案を作り、メールで研究分担者に配布した。次に、平成 25 年度に 2 回の班会議（平成 25 年 6 月 27 日東京、同年 11 月 28 日名古屋）を開催して、研究分担者および研究協力者と上記ガイドラインについて意見を交換した。いずれの会議においてもあらかじめ研究分担者の元にメールで送られていた文案について研究代表者から改めて説明がなされた。それに対して研究分担者および研究協力者の間で議論が交わされた。その討論内容は事務局がメモで記録するとともに、同時に録音したテープを起して議事録を作成した。事務局のメモと議事録に基づいて最終案を作成して班員にメールで配布し、意見を受けてさらに 2 回修正して以下の決定稿が完成した。

小児 B 型慢性肝炎治療のガイドラインは、1.治療の適応、2.インターフェロン療法、3.核酸アナログによる治療の大項目からなる。2.はさらに 2-1.治療の原則、2-2. 治療の目標と効果判定、2-3. インターフェロン治療の副作用と対策の 3 つの中項目から成る。また文末に治療の進め方と治療開始時の留意点が一見して分かるようにフローチャートを付けた。大項目と中項目では、それぞれの課題に対する推奨文（ステイトメント）を 2～4 行の短い文章で呈示している。また、ステイトメントを補足するために注釈文を付けた。

C 型肝炎は、1. 治療の適応、2.ペグインターフェロン+リバビリン併用療法の大項目から成る。2.はさらに 2-1.初回治療、2-2.治療法の選択、2-3.治療の目標と効果判定、

2-4.重篤な副作用と対策、2-5.治療の中止基準、2-6. 治療期間の延長基準の 6 つの中項目から成る。2-6.はさらに 2-6-1.、2-6-2.の 2 つの小項目から成る（詳細はガイドライン本文参照）。また初回治療の選択が一見して分かるように文末にウイルス量とゲノタイプで区分した初回治療の選択表を付けた。

C. 結論

本研究によって、我が国で初めて小児 B 型慢性肝炎と C 型慢性肝炎に対する療のガイドラインを作成することができた。この成果は、我が国における小児 B 型および C 型肝炎の撲滅にむけての重要な一歩となることが期待できる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Tajiri H, Tanaka H, Brooks S, Takano T. Reduction of hepatocellular carcinoma in childhood after introduction of selective vaccination against hepatitis B virus for infants born to HBV carrier mothers. *Cancer Causes Control* 2011;22:523-7.
- 2) Tomomasa T, Tajiri H, Kagimoto S, Shimizu T, Yoden A, Ushijima K, Uchida K, Kaneko H, Abukawa D, Konno M, Maisawa S, Kohsaka T, Kobayashi A; Japanese Study Group for Pediatric Ulcerative Colitis. Leukocytapheresis in pediatric patients with ulcerative colitis. *J Pediatr Gastroenterol Nutr.* 2011 Jul;53(1):34-9

- 3) Tajiri H, Tanaka Y, Takano T, Suzuki M, Abukawa D, Miyoshi Y, Shimizu T, Brooks S. Association of IL28B polymorphisms with virological response to peginterferon and ribavirin therapy in children and adolescents with chronic hepatitis C. *Hepatology Res.* 2013 Jul 11.
- 4) Tajiri H, Takeuchi Y, Takano T, Ohura T, Inui A, Yamamoto K, Higashidate Y, Kawashima H, Toyoda S, Ushijima K, Ramakrishnan G, Rosenlund M, Holl K. The burden of rotavirus gastroenteritis and hospital-acquired rotavirus gastroenteritis among children aged less than 6 years in Japan: a retrospective, multicenter epidemiological survey. *BMC Pediatr.* 2013 May 22;13:83.
- 5) 田尻仁, 高野智子。小児の肝疾患 up to date—C型肝炎。小児科 52 巻 Page29-34, 2011
- 6) 田尻 仁:わが国における B 型肝炎の現状とユニバーサルワクチネーション、化学療法の領域: 2、259-265、2013.01
- 7) 田尻 仁, 高野 智子: 対策をめぐる最新情報 小児 B 型肝炎の感染予防と最近の治療法、医学のあゆみ: 5、383-388、2012.08
- 8) 四柳 宏, 田中 靖人, 齋藤 昭彦, 梅村 武司, 伊藤 清頭, 柘植 雅貴, 高橋 祥一, 中西 裕之, 吉田 香奈子, 世古口 悟, 高橋 秀明, 林 和彦, 田尻 仁, 小松 陽樹, 菅内 文中, 田尻 和人, 上田 佳秀, 奥瀬 千晃, 八橋 弘, 溝上 雅史: B 型肝炎 universal vaccination へ向けて、肝臓: 2、117-130、2012.02
- 9) 森島恒雄, 藤井洋輔. B 型肝炎の感染予防—母子感染の現状と universal vaccination—. *Bio Clinica*:365 号:46-51. 2013
- 10) Gotoh K, Ito Y, Suzuki E, Kaneko K, Kiuchi T, Ando H, Kimura H. Effectiveness and safety of inactivated influenza vaccination in pediatric liver transplant recipients over three influenza seasons. *Pediatr Transplant* 15: 112-116, 2011
- 11) Torii Y, Kimura H, Gotoh K, Ochi N, Kaneko K, Ando H, Kiuchi T, Ito Y. Immunogenicity of inactivated 2009 H1N1 influenza vaccine in pediatric liver transplant recipients. *Vaccine* 29: 4187-4189, 2011
- 12) Yasuda K, Sugiura K, Ishikawa R, Kihira M, Negishi Y, Iwayama H, Ito K, Kimura H, Kosugi I, Akiyama M. Perinatal cytomegalovirus -associated bullae in an immunocompetent infant. *Arch Dermatol* 148: 770-2, 2012
- 13) Torii Y, Kimura H, Hayashi K, Suzuki M, Kawada J, Kojima S, Katano Y, Goto H, Ito Y. Causes of vertical transmission of hepatitis B virus under the at-risk prevention strategy in Japan. *Microbiol Immunol* 57:118-2, 2013
- 14) Torii Y, Kimura H, Ito Y, Hayakawa M, Tanaka T, Tajiri H, Yoto Y, Tanaka-Taya K, Kanegane H, Nariai A, Sakata H, Tsutsumi H, Oda M, Yokota S, Morishima T, Moriuchi H. Clinico-epidemiological states of mother-to-child infections: a nationwide survey in Japan. *Pediatr Infect Dis J* 32:699-701,2013.

- 15) Hiraiwa-Sofue A, Ito Y, Ohta R, Kimura H, Okumura A. Human Herpesvirus 6-Associated Encephalopathy in a Child with Dravet Syndrome. *Neuropediatrics*, 44:155-158, 2013
- 16) Kimura H, Kawada J, Ito Y. Epstein Barr-viruses-associated lymphoid malignancies: the expanding spectrum of hematopoietic neoplasms. *Nagoya J Med Sci*, 75:169-179, 2013.
- 17) Kawano Y, Iwata S, Kawada J, Gotoh K, Suzuki M, Torii Y, Kojima S, Kimura H, Ito Y. Plasma Viral MicroRNA Profiles Reveal Potential Biomarkers for Chronic Active Epstein-Barr Virus Infection. *J Infect Dis*. 208(5):771-779. 2013
- 18) Ito Y, Kimura H, Torii Y, Hayakawa M, Tanaka T, Tajiri H, Yoto Y, Tanaka-Taya K, Kanegane H, Nariai A, Sakata H, Tsutsumi H, Oda M, Yokota S, Morishima T, Moriuchi H, Risk factors for poor outcome in congenital cytomegalovirus infection and neonatal herpes on the basis of a nationwide survey in Japan. *Pediatr Int* 55(5):566-571, 2013
- 19) Suzuki M, Torii Y, Kawada J, Kimura H, Kamei H, Onishi Y, Kaneko K, Ando H, Kiuchi T, Ito Y. Immunogenicity of inactivated seasonal influenza vaccine in adult and pediatric liver transplant recipients over two seasons. *Microbiol Immunol*, 57(10):715-722, 2013.
- 20) Imahashi N, Nishida T, Ito Y, Kawada J, Nakazawa Y, Toji S, Suzuki S, Terakura S, Kato T, Murata M, Naoe T. Identification of a novel HLA-A*24:02-restricted adenovirus serotype 11-specific CD8+ T-cell epitope for adoptive immunotherapy. *Mol Immunol* 56(4):399-405, 2013
- 21) Kato S, Miyata T, Takata K, Shimada S, Ito Y, Tomita A, Elsayed A, Takahashi E, Asano N, Kinoshita T, Kimura H, Nakamura S. Epstein-Barr virus-positive cytotoxic T-cell lymphoma followed by chronic active Epstein-Barr virus infection-associated T/NK-cell lymphoproliferative disorder: a case report *Human Pathology* 44(12): 2849-2852, 2013
- 22) Suzuki M, Ito Y, Shimada A, Saito M, Muramatsu H, Hama A, Takahashi Y, Kimura H, Kojima S. Long-term parvovirus B19 infections with genetic drift after cord blood transplantation complicated by persistent CD4+ lymphocytopenia. *J Ped Hematol Onc*, 36(1):e65-68, 2014
- 23) 伊藤 嘉規(訳). 基礎ウイルス学/ウイルスワクチン. レビンソン微生物学・免疫学 (原書 11 版)、吉開康信、西山幸廣 (監訳) 丸善出版、P242-46, 2012
- 24) 木村 宏 (訳). 臨床ウイルス学/エンベロープを有する DNA ウイルス. レビンソン微生物学・免疫学 (原書 11 版)、吉開康信、西山幸廣 (監訳) 丸善出版、P247-62, 2012
- 25) Hosono S, Matsuo K, Ito H, Watanabe M, Hirose K, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H. Interaction

- Between CYP19A1 Polymorphisms and Body Mass Index in the Risk of Endometrial Cancer in Postmenopausal Japanese Women. *Asian Pac J Cancer Prev.* 2011;12(10):2747-52.
- 26) Hosono S, Matsuo K, Hirose K, Ito H, Suzuki T, Kawase T, Watanabe M, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H. Weight gain during adulthood and body weight at age 20 are associated with the risk of endometrial cancer in Japanese women. *J Epidemiol.* 2011 Nov 5;21(6):466-73. Epub 2011 Oct 8.
- 27) Nakao M, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Sato S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K. Selected polymorphisms of base excision repair genes and pancreatic cancer risk in Japanese. *J Epidemiol.* 2012;22(6): 477-83.
- 28) Hosono S, Matsuo K, Ito H, Oze I, Hirose K, Watanabe M, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H. Polymorphisms in base excision repair genes are associated with endometrial cancer risk among postmenopausal Japanese women. *Int J Gynecol Cancer.* 2013 Nov;23(9): 1561-8.
- 29) 細野覚代 運動によるがん予防のメカニズム 体育の科学 2012;62(2): 97-102.
- 30) 細野覚代、松田彩子、伊藤秀美 卵巣癌の罹患と死亡の動向 産科と婦人科 2012;79(6): 685-90.
- 31) 細野覚代、大木いずみ、松田彩子、伊藤秀美、祖父江友孝 子宮頸癌の罹患と死亡の動向 産科と婦人科 2013;80(10): 1285-90.
- 32) Endo T, Ito K, Sugiura T, Goto K. Hepatitis C virus clearance after discontinuation of pegylated interferon alpha-2a monotherapy in a child. *Case Rep Med.* 2012: 597348-51, 2012.
- 33) 杉浦時雄, 後藤健之. ウイルスの母子感染 HBV,HCVを中心に 産婦人科 治 102, 123-129, 2011
- 34) 杉浦時雄, 遠藤剛, 伊藤孝一, 鈴森伸宏, 齋藤伸治, 田中靖人. 高ウイルス量妊婦へのラミブジン投与による B 型肝炎ウイルス母子感染予防. 肝臓. 53 巻 10 号: 610-614, 2012.
- 35) Sugiyama M, Tanaka Y, Wakita T, Nakanishi M, Mizokami M. Genetic variation of the IL-28B promoter affecting gene expression. *PLoS One.* 2011;6(10):e26620.
- 36) Sugiyama M, Mizokami M. [Genome-wide association study and the clinical application to chronic hepatitis C]. *Uirusu.* 2011 Jun;61(1):15-24.Review. Japanese.
- 37) Sugiyama M, Inui A, Shin-I T, Komatsu H, Mukaide M, Masaki N, Murata K, Ito K, Nakanishi M, Fujisawa T, Mizokami M. Easy-to-use phylogenetic analysis system for hepatitis B virus infection. *Hepato Res.* 2011 Oct;41(10):936-45.
- 38) Tanaka Y, Kurosaki M, Nishida N, Sugiyama M, Matsuura K, Sakamoto N, Enomoto N, Yatsuhashi H, Nishiguchi S, Hino K, Hige S, Itoh Y, Tanaka E, Mochida S, Honda M, Hiasa Y, Koike A, Sugauchi F,

- Kaneko S, Izumi N, Tokunaga K, Mizokami M. Genome-wide association study identified ITPA/DDRGK1 variants reflecting thrombocytopenia in pegylated interferon and ribavirin therapy for chronic hepatitis C. *Hum Mol Genet.* 2011 Sep 1;20(17):3507-16.
- 39) Sa-Nguanmoo P, Tanaka Y, Ratanakorn P, Sugiyama M, Murakami S, Payungporn S, Sommanustweechai A, Mizokami M, Poovorawan Y. Cross-species transmission of gibbon and orangutan hepatitis B virus to uPA/SCID mice with human hepatocytes. *Virus Res.* 2011 Jun;158(1-2):209-15.
- 40) Ito K, Higami K, Masaki N, Sugiyama M, Mukaide M, Saito H, Aoki Y, Sato Y, Imamura M, Murata K, Nomura H, Hige S, Adachi H, Hino K, Yatsushashi H, Orito E, Kani S, Tanaka Y, Mizokami M. The rs8099917 polymorphism, when determined by a suitable genotyping method, is a better predictor for response to pegylated alpha interferon/ribavirin therapy in Japanese patients than other single nucleotide polymorphisms associated with interleukin-28B. *J Clin Microbiol.* 2011 May;49(5):1853-60.
- 41) Sugiyama M, Tanaka Y, Nakanishi M, Mizokami M. Novel findings for the development of drug therapy for various liver diseases: Genetic variation in IL-28B is associated with response to the therapy for chronic hepatitis C. *J Pharmacol Sci.* 2011;115(3):263-9.
- 42) Tatematsu K, Tanaka Y, Sugiyama M, Sudoh M, Mizokami M. Host sphingolipid biosynthesis is a promising therapeutic target for the inhibition of hepatitis B virus replication. *J Med Virol.* 2011 Apr;83(4):587-93.
- 43) Sugauchi F, Tanaka Y, Kusumoto S, Matsuura K, Sugiyama M, Kurbanov F, Ueda R, Mizokami M. Virological and clinical characteristics on reactivation of occult hepatitis B in patients with hematological malignancy. *J Med Virol.* 2011 Mar;83(3):412-8.
- 44) Yuen MF, Wong DK, Lee CK, Tanaka Y, Allain JP, Fung J, Leung J, Lin CK, Sugiyama M, Sugauchi F, Mizokami M, Lai CL. Transmissibility of hepatitis B virus (HBV) infection through blood transfusion from blood donors with occult HBV infection. *Clin Infect Dis.* 2011 Mar 1;52(5):624-32.
- 45) Watanabe T, Sugauchi F, Tanaka Y, Matsuura K, Yatsushashi H, Murakami S, Iijima S, Iio E, Sugiyama M, Shimada T, Kakuni M, Kohara M, Mizokami M. Hepatitis C virus kinetics by administration of pegylated interferon- α in human and chimeric mice carrying human hepatocytes with variants of the IL28B gene. *Gut.* 2012 Nov 7 in press
- 46) Kumar V, Yi Lo PH, Sawai H, Kato N, Takahashi A, Deng Z, Urabe Y, Mbarek H, Tokunaga K, Tanaka Y,

- Sugiyama M, Mizokami M, Muroyama R, Tateishi R, Omata M, Koike K, Tanikawa C, Kamatani N, Kubo M, Nakamura Y, Matsuda K. Soluble MICA and a MICA variation as possible prognostic biomarkers for HBV-induced hepatocellular carcinoma. *PLoS One*. 2012;7(9):e44743.
- 47) Nishida N, Sawai H, Matsuura K, Sugiyama M, Ahn SH, Park JY, Hige S, Kang JH, Suzuki K, Kurosaki M, Asahina Y, Mochida S, Watanabe M, Tanaka E, Honda M, Kaneko S, Orito E, Itoh Y, Mita E, Tamori A, Murawaki Y, Hiasa Y, Sakaida I, Korenaga M, Hino K, Ide T, Kawashima M, Mawatari Y, Sageshima M, Ogasawara Y, Koike A, Izumi N, Han KH, Tanaka Y, Tokunaga K, Mizokami M. Genome-wide association study confirming association of HLA-DP with protection against chronic hepatitis B and viral clearance in Japanese and Korean. *PLoS One*. 2012;7(6):e39175.
- 48) Sawai H, Nishida N, Mbarek H, Matsuda K, Mawatari Y, Yamaoka M, Hige S, Kang JH, Abe K, Mochida S, Watanabe M, Kurosaki M, Asahina Y, Izumi N, Honda M, Kaneko S, Tanaka E, Matsuura K, Itoh Y, Mita E, Korenaga M, Hino K, Murawaki Y, Hiasa Y, Ide T, Ito K, Sugiyama M, Ahn SH, Han KH, Park JY, Yuen MF, Nakamura Y, Tanaka Y, Mizokami M, Tokunaga K. No association for carcinoma susceptibility SNP in other East Asian populations. *BMC Med Genet*. 2012 Jun 19;13:47.
- 49) Sugiyama M, Kimura T, Naito S, Mukaide M, Shinauchi T, Ueno M, Ito K, Murata K, Mizokami M. Development of specific and quantitative real-time detection PCR and immunoassays for $\lambda 3$ -interferon. *Hepatol Res*. 2012 Nov;42(11):1089-99.
- 50) Saito H, Ito K, Sugiyama M, Matsui T, Aoki Y, Imamura M, Murata K, Masaki N, Nomura H, Adachi H, Hige S, Enomoto N, Sakamoto N, Kurosaki M, Mizokami M, Watanabe S. Factors responsible for the discrepancy between IL28B polymorphism prediction and the viral response to peginterferon plus ribavirin therapy in Japanese chronic hepatitis C patients. *Hepatol Res*. 2012 Oct;42(10):958-965.
- 51) Ito K, Kuno A, Ikehara Y, Sugiyama M, Saito H, Aoki Y, Matsui T, Imamura M, Korenaga M, Murata K, Masaki N, Tanaka Y, Hige S, Izumi N, Kurosaki M, Nishiguchi S, Sakamoto M, Kage M, Narimatsu H, Mizokami M. LecT-Hepa, a glyco-marker derived from multiple lectins, as a predictor of liver fibrosis in chronic hepatitis C patients. *Hepatology*. 2012 Oct;56(4):1448-56.
- 52) Nakano T, Lau GM, Lau GM, Sugiyama M, Mizokami M. An updated analysis of hepatitis C virus genotypes and subtypes based on the complete coding region. *Liver Int*.

- 2012 Feb;32(2):339-45.
- 53) Watashi K, Sluder A, Daito T, Matsunaga S, Ryo A, Nagamori S, Iwamoto M, Nakajima S, Tsukuda S, Borroto-Esoda K, Sugiyama M, Tanaka Y, Kanai Y, Kusuhara H, Mizokami M, Wakita T. Cyclosporin A and its analogs inhibit hepatitis B virus entry into cultured hepatocytes through targeting a membrane transporter NTCP. *Hepatology*. 2013 Dec 21. Epub
- 54) Trinks J, Sugiyama M, Tanaka Y, Kurbanov F, Benetucci J, Giménez E, Weissenbacher MC, Mizokami M, Oubiña JR. In vitro replication competence of a Hepatitis B genotype D/A recombinant virus: dissimilar biological behavior regarding its parental genotypes. *J Gen Virol*. 2013 Sep 11. Epub
- 55) Ito K, Yotsuyanagi H, Yatsushashi H, Karino Y, Takikawa Y, Saito T, Arase Y, Imazeki F, Kurosaki M, Umemura T, Ichida T, Toyoda H, Yoneda M, Mita E, Yamamoto K, Michitaka K, Maeshiro T, Tanuma J, Tanaka Y, Sugiyama M, Murata K, Masaki N, Mizokami M; Japanese AHB Study Group. Risk factors for long-term persistence of serum hepatitis B surface antigen following acute hepatitis B virus infection in Japanese adults. *Hepatology*. 2013 Jul 29. Epub
- 56) Rawal RK, Singh US, Chavre SN, Wang J, Sugiyama M, Hung W, Govindarajan R, Korba B, Tanaka Y, Chu CK, 2'-Fluoro-6'-methylene-carbocyclic adenosine phosphoramidate (FMCAP) prodrug: in vitro anti-HBV activity against the lamivudine-entecavir resistant triple mutant and its mechanism of action. *Bioorg Med Chem Lett*. 2013 Jan 15;23(2):503-6.
- 57) Murata K, Sugiyama M, Kimura T, Yoshio S, Kanto T, Kirikae I, Saito H, Aoki Y, Hiramine S, Matsui T, Ito K, Korenaga M, Imamura M, Masaki N, Mizokami M. Ex vivo induction of IFN- λ 3 by a TLR7 agonist determines response to Peg-IFN/Ribavirin therapy in chronic hepatitis C patients. *J Gastroenterol*. 2013 Apr 17.
- 58) Sunbul M, Khan A, Kurbanov F, Leblebicioglu H, Sugiyama M, Tanaka Y, Mizokami M. Tracing the Spread of Hepatitis C Virus in Turkey: A Phylogenetic Analysis. *Intervirology*. 2013 Mar 19.
- 59) Yoshio S, Kanto T, Kuroda S, Matsubara T, Higashitani K, Kakita N, Ishida H, Hiramatsu N, Nagano H, Sugiyama M, Murata K, Fukuhara T, Matsuura Y, Hayashi N, Mizokami M, Takehara T. Human blood dendritic cell antigen 3 (BDCA3)(+) dendritic cells are a potent producer of interferon- λ in response to hepatitis C virus. *Hepatology*. 2013 May;57(5):1705-15.
- 60) Sakamoto T, Tanaka Y, Watanabe T, Iijima S, Kani S, Sugiyama M, Murakami S, Matsuura K, Kusakabe A, Shinkai N, Sugauchi F, Mizokami

- M. Mechanism of the dependence of hepatitis B virus genotype G on co-infection with other genotypes for viral replication. *J Viral Hepat.* 2013 Apr;20(4):e27-36.
- 61) Komatsu H, Sugawara H, Inui A, Nagamine K, Hiejima E, Sogo T, Fujisawa T.:Dose the spread of hepatitis B virus genotype A increase the risk of intrafamilial transmission in Japan? *J Infect Chemother.* 17;272-277(2011)
- 62) Tsunoda T, Inui A, Etani Y, Kiyohara Y, Sugiura T, Ito K, Miyazawa R, Nagata I, Ida S, Fujisawa T.:Efficacy of pegylated interferon- α -2a monotherapy in Japanese children with chronic hepatitis C. *Hepatol Res* 41;399-404(2011)
- 63) Haruki Komatsu, Ayano Inui, Tsuyoshi Sogo, Akihiko Tateno, Reiko Shimokawa, Tomoo Fujisawa.:Tears from children with chronic hepatitis B virus(HBV) infection are infectious vehicles of HBV transmission: experimental transmission of HBV by tears, using mice with chimeric human livers. *The Journal Infectious Disease* 206(4):478-485(2012)
- 64) Haruki Komatsu, Ayano Inui, Tomoyuki Tsunoda, Tsuyoshi Sogo, Tomoo Fujisawa. :Association between an IL-28B genetic polymorphism and the efficacy of the response-guided pegylated interferon therapy in children with chronic hepatic C infection. *Hepatology Research* 43;327-338 (2013)
- 65) Tomoyuki Tsunoda, Ayano Inui, Manari Kawamoto, Tsuyoshi Sogo, Haruki Komatsu, Tomoo Fusisawa. Effects of pegylated interferon- α -2a monotherapy on growth in Japanese children with chronic hepatitis C. *Hepatol Res* 2013 Mar 27(Epub ahead of print)
- 66) 乾あやの：わが国における B 型肝炎母子感染の問題と対策—ユニバーサルワクチンに向けて— *日本小児科学会雑誌* 115 ; 529-537(2011)
- 67) 小松陽樹、藤澤知雄：B 型肝炎 *小児科* 52;19-28(2011)
- 68) 藤澤知雄：B 型肝炎ウイルスマーカー *小児内科* 43;278-282(2011)
- 69) 小松陽樹、乾あやの、藤澤知雄：母子および家族内感染による HBV 感染と予防対策 *日本臨床* 69(増刊号);390-396(2011)
- 70) 角田知之、乾あやの、村山昌俊、十河剛、小松陽樹、永井敏郎、藤澤知雄：HBV 母子感染防止対策事業による母子感染予防の長期予防効果 *肝臓* 52;491-493(2011)
- 71) 乾あやの：小児の黄疸 *日本医師会雑誌* 140 特別号(2);S316-S319(2011)
- 72) 角田知之、乾あやの：皮膚が黄色い *小児内科* 43;1646-1649(2011)
- 73) 藤澤知雄：C 型肝炎ウイルスマーカー *小児内科* 43;1101-1105(2011)
- 74) 藤澤知雄：1 か月健診での黄疸の対応について教えてください *小児内科* 43(増刊号);226-228(2011)
- 75) 小松陽樹、藤澤知雄：HBs 抗原陽生児をみつけた場合の対応はどうすればよいですか *小児内科* 43(増刊号);726-728(2011)
- 76) 藤澤知雄：母体感染スクリーニング検

- 査陽性者から出生した新生児への対応
周産期医学 42(2):231-235(2012)
- 77) 乾あやの、角田知之、十河剛、小松陽樹、藤澤知雄:慢性ウイルス性肝炎(B・C型肝炎) 小児科臨床 65(4):866-872(2012)
- 78) 小松陽樹、乾あやの、十河剛、藤澤知雄:世界標準のB型肝炎予防法 小児内科 44(6):922-926(2012)
- 79) 藤澤知雄、角田知之、十河剛、乾あやの、小松陽樹:B型肝炎、C型肝炎 小児内科 44(7):1093-1098(2012)
- 80) 乾あやの、角田知之、川本愛里、藤原伸一、伊地知園子、十河剛、小松陽樹、藤澤知雄:父親がB型肝炎ウイルスのキャリアです。子どもにはB型肝炎ワクチンを受けさせたほうがよいですか 小児科診療 70(10):1827-1834(2012)
- 81) 藤澤知雄:B型肝炎ワクチンの定期接種がなぜ必要なのか 東京小児科医会報 105号 31(2):76-82(2012)
- 82) 藤澤知雄:肝炎ウイルスワクチン—B型肝炎ワクチン、C型肝炎ワクチン—保健の科学 54(12):822-826(2012)
- 83) 藤澤知雄:わが国のB型肝炎予防体制の現状と課題 医学のあゆみ 244(1):105-111(2012)
- 84) 乾あやの、角田知之、十河剛、小松陽樹、藤澤知雄:B型肝炎 臨床とウイルス 40(1):20-27(2012)
- 85) 藤澤知雄:B型肝炎ワクチン 小児科学レクチャー 2(2):377-383(2012)
- 86) 四柳宏、田中靖人、齋藤昭彦、梅村武史、伊藤清頭、柘植雅貴、高橋洋一、中西裕之、吉田香奈子、世古口悟、高橋秀明、林和彦、田尻仁、小松陽樹、菅内文中、田尻和人、上田佳秀、奥瀬千晃、八橋弘、溝上雅史:B型肝炎 universal vaccination について 肝臓 53(2):117-130(2012)
- 87) 十河剛、森實雅司、乾あやの、藤澤知雄:小児急性肝不全の内科的治療戦略 日本小児科学会雑誌 117(4); 718-731(2013)
- 88) 藤澤知雄:小児期にB型肝炎ワクチン接種がなぜ必要なのか—B型肝炎ワクチンの定期接種化に向けて— 日本小児科医会会報 (46); 150-154(2013)
- 89) 乾あやの、角田知之、川本愛里:ウイルス性肝炎、その他の慢性肝疾患 診療と治療 101(12); 1877-1880(2013)
- 90) Murakami J, et al. Risk factors for mother-to-child transmission of hepatitis C virus: Maternal high viral load and fetal exposure in the birth canal. Hepatol Res 42: 648-657, 2012
- 91) 長田郁夫、村上 潤. 肝炎ウイルスの母子感染(小児科の立場から):母子感染. 金原出版, 東京: 308-313, 2011
- 92) 村上 潤, 長田郁夫. C型肝炎ウイルス母子感染および家庭内感染とその予防対策. 日本臨床 69 巻増刊: 122-127, 2011
- 93) 長田郁夫、村上 潤:ウイルス性肝炎. 周産期医学 41(増刊): 613-615, 2011
- 94) 長田郁夫、村上 潤:B型肝炎にウイルス母子感染予防. 周産期医学 41(増刊): 1029-1030, 2011
- 95) 長田郁夫、村上 潤. 母子感染症:HBV、HCV. 症例から学ぶ周産期診療ワークブック. メジカルビュー社、東京: 204-209, 2012
- 96) 長田郁夫、村上 潤. 肝障害. ワンランク上の小児臨床検査—病態生理に基づく選び方・考え方—. 大藪恵一編、総合医学社、東京: 435-441, 2012

- 97) HCV 抗体陽性. 長田郁夫、他. 小児科診療 77, 2014 (in press)
- 98) B 型・C 型肝炎ウイルス母子感染. 長田郁夫、他. 新領域別症候群シリーズ No. 25: 699-702, 2013
- 99) 【予防接種 Q&A】 B 型肝炎 無反応例 B 型肝炎ワクチンの無反応例とその対策について教えてください. 工藤豊一郎(茨城県立こども病院 感染症・消化器科), 泉 維昌. 小児内科 45 巻増刊 pp.579-580(2013.11)
- 100) Suzuki M, Muraji T, et al. Urinary sulfated bile acid analysis for the early detection of biliary atresia in infants *Pediatr Int* 2011; 53: 497-500.
- 101) Mizuochi T, Kimura A, Suzuki M, et al. Successful heterozygous living-donor liver transplantation for oxysterol 7 α -hydroxylase deficiency in a Japanese patient. *Liver Transpl* 2011; 17: 1059-65.
- 102) Mitamura K, Hori N, Iida T, Suzuki M, et al. Identification of S-acyl glutathione conjugates of bile acids in human bile by means of LC/ESI-MS. *Steroids* 2011; 76: 1609-14.
- 103) Furukawa T, Akimoto K, Ohtsuki M, Sato K, Suzuki M, et al. Noninvasive assessment of liver fibrosis in patients after the Fontan operation. *Pediatr Int* 2011;53:980-4.
- 104) Suzuki M, Inage E, Minowa K, et al. Prophylaxis for ribavirin-related anemia using eicosapentaenoic acid in chronic hepatitis C patients. *Pediatr Int* 54: 528-31, 2012
- 105) Minowa K, Suzuki M, Fujimura J, et al. L-asparaginase induced pancreatic injury is associated with an imbalance in plasma amino acid concentrations. *Drugs R&D* 12: 49-55, 2012
- 106) 池川繁男,堀直宏, 三田村邦子, 飯田隆, 鈴木光幸. 液体クロマトグラフィー/質量分析法によるヒト胆汁中グルタチオン抱合型胆汁酸の同定. 胆膵の病態生理 2011; 27: 23-27.
- 107) 菅沼広樹, 鈴木光幸, 他. 劇症肝不全として発症したミトコンドリア DNA 枯渴症候群の新生児例. 日児誌 2011; 115: 1067-72.
- 108) 鈴木光幸, 成高中之, 箕輪圭, 他. *PRSS1* および *SPINK1* 遺伝子異常による小児期急性膵炎の臨床的特徴とその管理. 日小児栄消肝会雑 26: 12-20, 2012
- 109) 成高中之, 鈴木光幸, 齋藤暢知, 他. インフルエンザ・RSV 同時検出迅速検査キットを用いた RSV 感染症の鑑別と臨床像の検討. 外来小児科 16: 76-8, 2013
- 110) 鈴木光幸, 清水俊明. 家族性膵炎・遺伝性膵炎. 小児科診療 76:303-309, 2013
- 111) 鈴木光幸, 清水俊明. クローズアップ 新しい子どもの病気 消化器・肝胆膵疾患 原因が解明された既存疾患 遺伝子変異に起因する急性・慢性膵炎.小児内科 45: 1122-1124, 2013
- 112) 箕輪圭, 鈴木光幸, 清水俊明. クローズアップ 負荷試験の実際 2013 経口脂肪負荷試験. 小児内科 45: 919-921, 2013
- 113) 鈴木光幸, 清水俊明. クローズアップ 負荷試験の実際 2013 ¹³C-脂肪負荷試験. 小児内科 45: 922-924, 2013

- 114) 鈴木光幸, 箕輪圭, 時田章史. 豊島区内中学校における骨密度測定事業—行政刷新会議(事業仕分け)後の現状と展望—. 豊島区医師会会報 125:14-20, 2013
- 115) 鈴木光幸, 清水俊明. 家族歴がなければ急性・慢性肝炎の原因として遺伝性は考えない?. 小児内科 45:1893-5, 2013
2. 学会発表
- 1) 高野智子, 田尻仁, 清原由起, 恵谷ゆり, 三善陽子: 小児 B 型慢性肝炎の HBe 抗原・抗体系のセロコンバージョンに関連する因子の検討. 第 39 回日本肝臓学会西部部会, 2011.12.10, 岡山
 - 2) 田尻仁, 高野智子: 小児 B 型肝炎の家族内感染と予防の実態に関する検討. 第 39 回日本肝臓学会西部部会, 2011.12.9, 岡山
 - 3) 田尻仁, 高野智子, 木村貞美, 西浦博史: 小児 B 型慢性肝炎に対するラミブジン短期併用インターフェロン療法の試み. 第 28 回 日本小児肝臓研究会, 2011.7.16~17, つくば
 - 4) 高野智子, 木村貞美, 田尻仁: ペグインターフェロン・リバビリン併用療法に難渋した C 型慢性肝炎の 2 症例. 第 28 回 日本小児肝臓研究会, 2011.7.16~17, つくば
 - 5) 清原由起, 高野智子, 田尻仁, 恵谷ゆり, 三善陽子: 小児期 B 型慢性肝炎に対するインターフェロン治療の短期的及び長期的効果に関する検討. 第 15 回日本肝臓学会大会, 2011.10.20, 福岡.
 - 6) 高野智子, 木村貞美, 田尻仁: ネフローゼ症候群に対する標準的なステロイド治療に予防的核酸アナログを併用した HBV キャリアの 4 歳男児例. 第 38 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 2011.10.8, 盛岡.
 - 7) 田尻仁: ウイルス性肝炎の進歩と課題. 第 38 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 2011.10.9, 盛岡.
 - 8) 田尻仁, 高野智子, 木村貞美: HBV 関連小児期肝細胞癌に関する検討 臨床像と HB ワクチンによる発癌予防. 第 27 回日本小児肝臓研究会, 2011.7.24, 千葉市.
 - 9) 高野智子, 木村貞美, 田尻仁, 吉田洋: 母子感染による慢性 B 型肝炎から肝細胞癌を発生した 9 歳男児例. 第 27 回日本小児肝臓研究会, 2011.7.24, 千葉市.
 - 10) 高野智子, 田尻仁, 清原由起, 三善陽子: C 型肝炎ウイルス母子感染 52 症例の小児期の臨床経過及び治療成績に関する検討. 第 47 回日本肝臓学会総会, 2011.6.3, 東京.
 - 11) 田尻仁, 藤澤知雄: B 型肝炎 universal vaccination へ向けて 2006~2008 年の 3 年間を対象とした B 型肝炎母子感染実態の全国アンケート調査. 第 47 回日本肝臓学会総会, 2011.6.2, 東京.
 - 12) 藤井洋輔, 森島恒雄, 藤澤知雄, 田尻仁: B 型肝炎母子感染に関する全国調査結果(厚生労働省研究班). 第 114 回日本小児科学会, 2011.4.15, 東京.
 - 13) 田尻仁, 高野智子, 木村貞美: B 型肝炎 9 歳男児の症例報告および小児期発症 B 型肝炎に関する文献的検討. 第 114 回日本小児科学会, 2011.4.15, 東京.
 - 14) 田尻仁, 高野智子, 木村貞美: 小児 B 型肝炎の家族内感染と予防の実態. 第 114 回日本小児科学会, 2011.4.15, 東京.
 - 15) 釣永雄希, 高野智子, 木村貞美, 野間治義, 楠本義雄, 小西暁子, 田尻仁: 前

- 肝硬変状態を呈した B 型慢性肝炎の 2 症例. 第 114 回日本小児科学会, 2011.4.15, 東京.
- 16) 高野智子, 木村貞美, 野間治義, 楠本義雄, 小西暁子, 田尻仁: 当科フォロー中の B 型肝炎ウイルス母子感染 26 例の臨床経過についての検討. 第 114 回日本小児科学会, 2011.4.15, 東京.
- 17) 田尻 仁, 高野 智子, 鈴木 光幸, 清原由起, 三善 陽子, 虻川 大樹, 清水 俊明: 小児期・思春期の C 型慢性肝炎に対する高用量ペグインターフェロン・リバビリン併用療法の試み. 第 16 回日本肝臓学会大会, 2012.10.10, 神戸
- 18) 田尻 仁, 高野 智子, 鈴木 光幸, 清原由起, 三善 陽子, 虻川 大樹, 清水 俊明: 小児期 C 型慢性肝炎に対する高用量ペグインターフェロン・リバビリン併用療法の成績. 第 29 回日本小児肝臓研究会, 2012.7.13, 大阪
- 19) 高野 智子, 田尻 仁, 三善 陽子, 長谷川 泰浩, 近藤 宏樹, 虫明 聡太郎: 原発性硬化性胆管炎・自己免疫性肝炎 小児期発症原発性硬化性胆管炎の臨床的特徴と経過の検討. 第 29 回日本小児肝臓研究会, 2012.7.13, 大阪
- 20) 高野 智子, 田尻 仁: 小児期 B 型慢性肝炎の母子感染と水平感染の臨床的比較検討. 第 48 回日本肝臓学会総会, 2012.6.8, 金沢
- 21) 藤井 洋輔, 森島 恒雄, 藤澤 知雄, 田尻 仁: 肝炎ウイルスの現状 我が国の B 型肝炎母子感染の実態調査について. 第 53 回日本臨床ウイルス学会, 2012.6.16, 豊中
- 22) 田尻 仁, 高野 智子, 木村 貞美, 西浦博史: 小児 HBe 抗原陽性 B 型慢性肝炎に対するラミブジン短期併用インターフェロン療法の試み. 第 115 回日本小児科学会学術集会, 2012.4.21, 福岡
- 23) 高野 智子, 田尻 仁, 清原 由起, 三善陽子, 惠谷 ゆり: 小児期発症 B 型慢性肝炎に対するインターフェロン治療の短期的及び長期的効果について. 第 115 回日本小児科学会学術集会, 2012.4.20, 福岡
- 24) 藤井洋輔, 森島恒雄, 田尻仁, 藤澤知雄. 肝炎ウイルスの現状 我が国の B 型肝炎母子感染の実態調査について. 第 53 回日本臨床ウイルス学会 シンポジウム. 2012 年 5 月, 大阪
- 25) 田尻 仁, 高野 智子, 鈴木 光幸, 三善陽子, 虻川 大樹 小児・青年期の C 型慢性肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン療法 治療効果と IL28B 遺伝子多型の検討: 肝臓 54 巻 Suppl.2 PageA625(2013.09)
- 26) 高野 智子, 田尻 仁, 惠谷 ゆり, 三善陽子 小児期 B 型肝炎ウイルス感染症の自然経過とインターフェロンの治療効果の検討: 肝臓 54 巻 Suppl.2 PageA548(2013.09)
- 27) 杉浦 時雄, 遠藤 剛, 伊藤 孝一, 齋藤伸治, 田中 靖人, 鈴木 伸宏, 高野 智子, 田尻 仁 高ウイルス量妊婦へのラミブジン投与による B 型肝炎ウイルス母子感染予防: 日本小児科学会雑誌 117 巻 8 号 Page1357(2013.08)
- 28) 高野 智子, 田尻 仁, 田中 靖人, 三善陽子, 牛島 高介, 鈴木 光幸, 虻川 大樹, 村上 潤, 要藤 裕孝 小児 B 型慢性肝炎の自然経過およびインターフェロン治療効果における IL28B 遺伝子多型の検討: 肝臓 54 巻 Suppl.1 PageA384(2013.04)
- 29) 田尻 仁, 高野 智子 小児・青年期の C 型慢性肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン療法 治療効果と

- IL28B 遺伝子多型の検討：肝臓 54 卷 Suppl.1 PageA209(2013.04)
- 30) 田尻 仁, 高野 智子, 鈴木 光幸, 三善 陽子, 虻川 大樹 C 型慢性肝炎のペグインターフェロン・リバビリン療法治療効果と IL28B 遺伝子多型：日本小児科学会雑誌 117 卷 2 号 Page325(2013.02)
- 31) 田尻 仁, 高野 智子, 村上 潤, 三善 陽子, 虻川 大樹小児 B 型慢性肝炎に対するインターフェロン療法の治療効果に関する検討：日本小児科学会雑誌 117 卷 2 号 Page325(2013.02)
- 32) 高野 智子, 田尻 仁, 三善 陽子, 恵谷 ゆり 小児期発症 B 型慢性肝炎に対するインターフェロン治療の長期的効果についての検討：日本小児科学会雑誌 117 卷 2 号 Page324(2013.02)
- 33) 倉橋 幸也, 岡山 智亮, 澤野 英樹, 村井 竜太郎, 小泉 眞琴, 田中 真也, 安部 治郎, 高野 智子, 田尻 仁, 恵谷 ゆり, 位田 忍 インターフェロンで寛解した母子感染による小児慢性 C 型肝炎の 2 例：日本小児科学会雑誌 117 卷 1 号 Page139(2013.01)
- 34) Kimura H, Gotoh K, Maruo S, Takada K, Iwata S, Goshima F, Nishiyama Y, Ito Y. Establishment of ex vivo primary EBV infection model using human tonsil tissue explants. The 15th International Conference on Immunobiology and Prophylaxis of Human Herpesvirus Infections. Venice, Italy. 2011.10
- 35) Moriuchi H, Torii Y, Ito Y, Kimura H, Clinicoepidemiological States of Congenital Cytomegalovirus Infections: A Nationwide Survey in Japan. CMV meeting 2012, San Francisco, USA, 2012.10.29-11.2
- 36) Yuka Torii, Yoshihiko Kawano, Hajime Sato, Tamaki Fujimori, Kazunori Sasaki, Jun-ichi Kawada, Yoshiaki Ohashi. Yoshinori Ito, Quantitative metabolome profiling reveals novel potential biomarkers in influenza-associated encephalopathy, IDWeek 2013, San Francisco, USA, October 2-6, 2013
- 37) Yoshihiko Kawano, Yuka Torii, Hajime Sato, Tamaki Fujimori, Kazunori Sasaki, Jun-ichi Kawada, Yoshiaki Ohashi, Yoshinori Ito, Quantitative metabolome profiling reveals novel potential biomarkers in human herpesvirus 6 encephalopathy, IDWeek 2013, San Francisco, USA, October 2-6, 2013
- 38) 木村 宏. 先天性・周産期感染症 (TORCH) の実態に関する全国アンケート二次調査結果. 第 43 回日本小児感染症学会総会. 岡山. 2011.10
- 39) 鳥居ゆか、伊藤嘉規、森内浩幸、木村宏. 日本における先天性サイトメガロウイルス感染症の現状～先天性・周産期感染症 (TORCH) の実態に関する全国アンケート二次調査結果より. 第 43 回日本小児感染症学会総会. 岡山. 2011.10
- 40) 鈴木道雄、鳥居ゆか、河野好彦、木村宏、伊藤嘉規. 肝移植後成人および小児例におけるインフルエンザワクチン接種の有効性・安全性についての検討. 第 15 回日本ワクチン学会学術集会. 東京. 2011.11
- 41) 伊藤嘉規、鳥居ゆか、森内浩幸、木村宏、先天性・周産期感染症 (TORCH) に関する全国アンケート調査、第 115

- 回日本小児科学会学術集会、福岡、
2012.4.21-22
- 42) 木村 宏. ウイルス学の基礎よりみた臓器移植後の感染症. 第48回日本移植学会総会、教育セミナー. 名古屋
2012. 9.22
- 43) 鈴木道雄、鳥居ゆか、神谷泰子、河野好彦、川田潤一、木村宏、伊藤嘉規、肝移植後小児におけるインフルエンザワクチンの有効性・安全性の検討（成人例との比較）、第44回日本小児感染症学会総会学術集会、北九州、
2012.11.24-25
- 44) 伊藤嘉規、小児科病棟での迅速診断とその応用-入院児のウイルス感染症早期診断と院内感染対策-、分野別シンポジウム9、第116回日本小児科学会学術集会、広島、2013.4.19-21、日本小児科学会雑誌 117(2):S48,2013
- 45) 鳥居ゆか、河野好彦、神谷泰子、鈴木道雄、川田潤一、伊藤嘉規、メタボローム解析を用いたインフルエンザ脳症の新規バイオマーカーの探索、第116回日本小児科学会学術集会、広島、
2013.4.19-21、日本小児科学会雑誌 117(2):158,2013
- 46) 鳥居ゆか、河野好彦、神谷泰子、鈴木道雄、川田潤一、伊藤嘉規、メタボローム解析によるインフルエンザ脳症患者血清中の代謝物プロファイリング、第87回日本感染症学会学術講演会、横浜、
2013.6.5-6、感染症学雑誌 87(臨時増刊号):330,2013
- 47) 鳥居ゆか、河野好彦、神谷泰子、鈴木道雄、川田潤一、伊藤嘉規、メタボローム解析を用いたインフルエンザ脳症・HHV-6脳症における新規バイオマーカーの探索、第45回日本小児感染症学会総会・学術集会、札幌、
2013.10.26
- 48) 伊藤嘉規、河野好彦、鳥居ゆか、安藤将太郎、神谷泰子、鈴木道雄、川田潤一、木村宏、国際標準物質を用いたEBV・CMV定量PCR系の標準化、第45回日本小児感染症学会総会・学術集会、札幌、2013.10.26
- 49) 川本愛里、岩澤賢太郎、近藤健夫、角野知之、十河剛、小松陽樹、乾あやの、伊藤嘉規、森雅亮、横田俊平、藤沢知雄、全身型若年性突発性関節炎に伴う肝機能異常の検討、第45回日本小児感染症学会総会・学術集会、札幌、
2013.10.26
- 50) 鈴木道雄、中川光、岩田誠子、五島典、伊藤嘉規、村田貴之、鶴見達也、木村宏、EBV関連T/NK腫瘍に対するHsp90阻害剤の効果、第61回日本ウイルス学会学術集会、名古屋、
2013.11.10-12
- 51) Hosono S, Matsuo K, Ito H, Watanabe M, Hirose K, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H. Polymorphisms in DNA repair genes are associated with endometrial cancer risk among Japanese women. AACR 102nd annual meeting. 2011.4.6. Florida.
- 52) Hosono S Dietary folate intake and the risk of colorectal cancer in Japanese population. 70th annual meeting of the Japanese Cancer Association. 2011.10.4. Nagoya.
- 53) Satoyo Hosono, Keitaro Matsuo, Hidemi Ito, Miki Watanabe, Isao Oze, Kaoru Hirose, Kazuo Tajima, Hideo Tanaka. Genetic risk predictor for colorectal cancer in Japanese population. 71th annual meeting of the Japanese Cancer Association.